

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2013.3 March vol.24 -1

子どもや若者への支援

2月21日から始まった定例議会では、安倍政権になって、地方交付税など地方の財源が削減される中、問題を抱える子どもや若者への支援としての事業の中で、カウンセラーやソーシャルワーカー、子どもと親の相談員の配置等の事業や、若

年無業者の職業的自立を支援する若者サポートステーション事業、問題を抱える無業者へのよりきめ細やかな支援を行うパーソナル・サポート・モデル事業、困難を有する子ども若者支援事業の継続と充実を求め、質問しました。

パーソナル・サポート・モデル事業



問 厳しい経済状況の中で、職を失い次の就職につながらない人たちへの自立支援を行うパーソナル・サポート・モデル事業の今後について聞く。

健康福祉部長 これまでの取り組みに加え、対象者を早期に把握する訪問支援や、一般就労が困難な者に対する軽易な作業を

提供するなど、多様な支援を行い、国が予定する2年後の全市町村への総合窓口の設置につなげたい。

若者無業者への自立支援



問 就職が困難な若者に対して支援の活動を行っている団体への支援に、県は今後どのように取り組む考えか。

健康福祉部長 若者への支援を一層充実させるため、民間団体と市町村がそれぞれの特性を生かしながら、一体となって支援を行うことが重要であり、今後

も引き続き活動を支援していきたい。

子どもと親の相談員配置事業



問 保護者への子育て相談や課題のある児童へのきめ細やかな

対応のため、教職経験者などを小学校に配置する「子どもと親の相談員配置事業」の今後について、いかがお考えか。

教育長 今年度は25校に拡充をし、来年度も継続して実施をしたい。

学校からは、児童生徒の学校生活や進路の不安や悩みに相談の窓口となつて問題解決につながった、保護者の子育てや子どもの不応対に対する不安の解消に役立った、生活保護の受給など家庭環境の改善が図られた、家庭に課題がある事例に適切な助言を受けられた等の事業効果が報告されている。

【用語解説】

カウンセラー：依頼者の抱える問題・悩みなどに対し、専門的な知識や技術を用いて行われる相談援助の総称

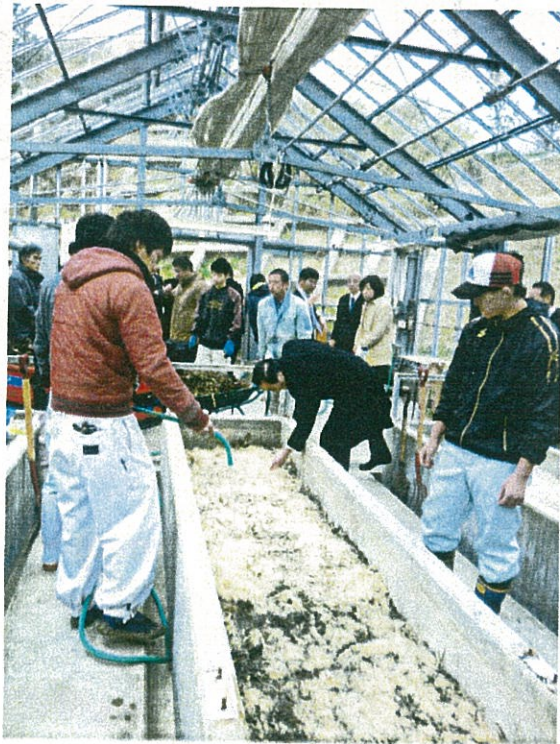
ソーシャルワーカー：生活する上で困っている人々や、生活に不安を抱えている人々、社会的に疎外されている人々に対して、総合的かつ包括的な援助を提供する専門職の総称



農業の担い手育成

農水商工委員会の県内調査に委員外議員で参加し、農業の担い手育成対策について農林業系学校の県立農林大学校、出雲農林高等学校、松江農林高等学校に行きました。

最初に訪れた農林大学校では、今、有機農業に対する関心が高いことから、有機農業専攻を設置し、野菜や水稻の有機農業技術の指導を行っています。特に、より現場に密着した学習を行うために、農業法人など有機農業先進農家に協力を得てサテライト校として設置し、実践的な教育を行っています。



堆肥づくりの実習を行う学生



シクラメンが瓶の中で育つインピトロフラワー

今回は、構内でたい肥作りに取り組むところを見学しました。先生の話では、有機専攻の学生は他の専攻以上に意欲的な学生が多いとのことでした。

これからの農業として注目されている有機農法を学び育つていく学生が島根の農業を担っていくリーダーとして育っていくことが期待されます。

次に、出雲農林高等学校で調査を行いました。出雲農林では、2年生のときに5日間のインターンシップを行い、体験学習を通して職業人の心構えや協調性を学び、また、将来の進路選択を考慮する場としています。生徒にも好評のようです。最後に松江農林高等学校で、

生物生産科の生物工学コースについて見学しました。バイオテクノロジーの学習を進め、生徒は課題を決めて研究活動をし卒業論文を作成します。

ここで取り組んでいる、瓶のなかの溶液と空気で育つインピトロフラワーは、ビンの蓋を開けることなく数ヶ月育つシクラメンです。水遣りなど忘れてしまうものにとっては、何も

しなくても花を鑑賞できるのはうれしいことです。こうした技術の研究がなされています。

このコースで学んでいる生徒たちから今後の進路について聞きましたが、今後、大学に進学し将来は農業系の教師になることを目標にして

いる生徒もいました。将来の島の農業の担い手が育ちつつあるところを見ました。

最近の話題から

◇畑の草取り◇

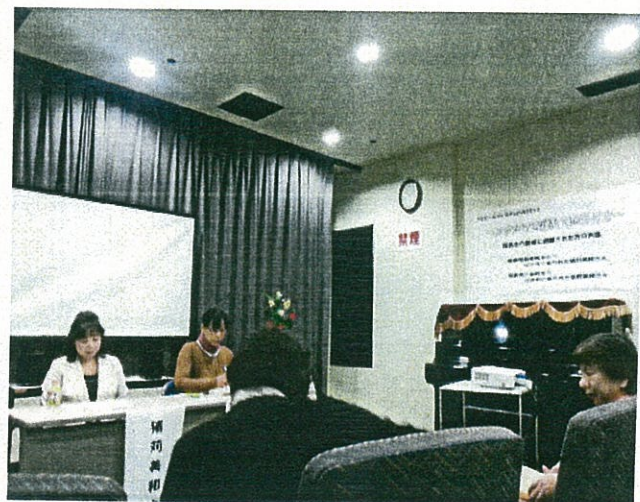
最近、少しずつ野菜づくりをしています。とはいってもほとんど手をかけていないので、野菜の苗より草の方が勢いよく、写真の青々としているのは雑草です。本当に雑草はたくましい。



◇フクシマを忘れない◇

「ベアテの贈りもの」を届ける会では、福島県から島根県に來られたお二人から「フクシマを離れて想うこと」と題してお話を伺いました。その中で、風評と風化が怖いと言われ、福島のことを皆が忘れないでほしい、福島復興はこれからで、

これからも支援が必要だと話されました。



◇白潟歴史まち歩き楽会◇

白潟地区の歴史を楽しむことを目的に定期的に開催される楽会で、江戸時代の宍道湖岸を確認して歩きました。

